

キャンパス散策（熊本高等専門学校）

■シンボルマーク・キャッチフレーズ



熊本高等専門学校の頭文字「K」をあしらったデザインです。公募作品の中から、視認性もよく、同じく公募されたキャッチフレーズ「革新する技術、創造する未来 ～夢へ翔る熊本高専～」に通じる躍動感に溢れているという理由で選ばれました。

■独立行政法人 国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校（国立熊本高専）

昭和18年設立の熊本無線通信講習所を前身として昭和46年に設置された熊本電波高専と、昭和49年創立の八代高専は、平成21年10月、教育・研究および地域連携活動の高度化を図るため、2つのキャンパスを持つ、「熊本高等専門学校（国立熊本高専）」として生まれ変わりました。

熊本高専は、社会や時代の変化に対応した新設6学科と、統合・強化した2つの専攻科による教育の高度化によって、15才からの5年間あるいは7年間の一貫教育の特徴を活かし、熱い心と創造性、そして工学的センスを持った若いエンジニアの育成をめざします。さらに、新しい3つのセンターの設置によって、専門工学・情報教育の発信、地域への研究開発支援・人材育成支援といった連携活動の充実を図ります。

また、教育・研究面だけでなく、自主性を尊重したキャンパスライフ、活発な学生会やクラブ活動、幅広い年齢層が集まる学寮での共同生活、ロボコンをはじめとした各種イベントへの参加など、学生たちの自由な活動を支援することで、感性豊かな「人間力」の育成をめざします。



熊本キャンパス（熊本県合志市）



八代キャンパス（熊本県八代市）

■ 2つのキャンパスと新6学科・2専攻

熊本高専は、阿蘇山の裾野に位置する熊本キャンパスと球磨川の河口に位置する八代キャンパス、直線距離50kmの2つの拠点に分かれています。一方は菊池原平原のくぬぎ林に囲まれ、他方は八代平野の広がりの中に在って、趣は異なりますが、豊かな自然環境に囲まれたキャンパスです。

熊本キャンパスには「情報通信エレクトロニクス工学科」「制御情報システム工学科」「人間情報システム工学科」および専攻科「電子情報システム工学専攻」のICT系学科、八代キャンパスには「機械知能システム工学科」「建築社会デザイン工学科」「生物化学システム工学科」および専攻科「生産システム工学専攻」の融合・複合工学系学科があり、6学科・2専攻をもつ全国有数の国立系高専となっています。



熊本キャンパス（校門付近）



八代キャンパス（中庭）

■ 3つのセンターと地域貢献活動



校内モニュメント「飛翔」



地域イノベーションセンター

新高専の特徴のひとつが、3つの新センターの設置です。

ICT活用学習支援センターは、2つの拠点を高速通信回線で結び、新高専の教育研究の推進を担う基盤拠点です。学生はもとより地域の方々にも学術情報やeラーニング等の教材を広く提供し、活用してもらうための施設です。

地域イノベーションセンターは、新高専の多様な専門分野を活かし、地域と一体となった共同研究・共同教育の推進に取り組みます。また、九州沖縄地区高専のテクノセンター等の拠点となることも期待されています。

PBL・総合教育センターは、PBL（Problem/Project Based Learning）教育を基盤に、高専教育全般の情報発信をめざします。高専独自の工学教育、国際化教育、キャリア教育の推進あるいは地域の科学技術教育支援に向けた取組を担います。

■国際化教育・研究

本校では、シンガポールのRepublic Polytechnic、Singapore Polytechnic、Temasek Polytechnicの3つのポリテクニクや、フィンランドのOulu University of Applied Sciencesとの包括交流協定を締結しており、また、ベルギーのIMEC（大学間電子工学研究センター）、スペインのCNM-IMB（バルセロナ国立マイクロ電子研究所）と学術交流協定を結び、国際化教育・研究を推進しています。これらの活動は、平成21年度の「教育GP」にも選定されています。



シンガポールでの「ものづくりキャンプ」

■地域温泉街との共同教育

本校の建築社会デザイン工学科では、八代市や地域のまちづくり協議会等と協力・連携して、「温泉街再生」をテーマに、新しいエンジニアの育成をめざしています。具体的には、米国の「メインストリートプログラム」を参考に、学生たちの力を活かして、「再生ステーション」の設置や「木造温泉旅館」の3D-CAD復元など、7つの再生企画を立上げ、これらを授業カリキュラムの中で実践しています。この活動は、平成19年度から「現代GP」としても採択されています。



日奈久での旧「温泉宿」修復・再生活動

■中学校プログラミングコンテスト

本校では、県下の中学生を対象にした「プログラミングコンテスト」を開催しています。このコンテストは、学生たちが中心となって企画・立案から運営・審査まで実施しているものです。学生たちが、eラーニング用コンテンツ等の開発も担い、事前の講習会・相談会での質問等に応えながら、エンジニアとして必要なICT活用能力やコミュニケーション力を養います。この活動も、平成19年度からの「現代GP」に採択されています。



中学生プログラミングコンテスト表彰式